

「2018 タイ・チュラロンコン大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部・2年 若杉美佳

今回、このプログラムへの参加を希望したのは、タイ語への興味からである。タイ語の授業は英語で行われ、日常会話を中心として一日に三時間ほどの授業があった。二週間、タイのチュラロンコン大学でタイ語を勉強し、タイ語とタイ文字で溢れる街中を歩くなかで、タイ語学習への意欲を高めることができた。残念ながらタイ文字の授業はなかったが、自分で勉強することによって滞在期間が長くなればなるほど読める文字が増えた。また、滞在期間中に聞き取れる単語が増えていく実感を得ていた。今後もタイ語学習を続けていきたいと考えている。

私は、このプログラムの事前研修の一環として、京都大学で行われる ASEAN 京都サマープログラムのサポーターとして活動した。このサポーター活動では、タイのチュラロンコン大学など東南アジア諸国の大学から京都大学に留学にきた学生のサポートをした。そして、私たちがタイを訪れた際には、京都サマープログラムに参加してくれた学生が中心となって私たちのタイでの生活をサポートしてくれた。この相互の協力が、京都大学の学生にとっても、チュラロンコン大学の学生にとっても、非常に良いものであったと考えている。今回のプログラムへの参加を決めるまで海外の同年代の学生と交流したことがなかった私にとって、彼らとの交流は非常に刺激的なものであった。彼らはバンコクの有名な観光地を案内してくれただけでなく、チュラ大の学生が普段どのように生活をしているか知りたいという私の要望に応じてくれ、彼らが普段行く店に連れていってくれた。タイ文字の書き方もチュラロンコン大学の学生たちに教えてもらった。観光としてタイを訪れるだけではできなかったであろう経験をさせてもらったことに感謝している。

タイに滞在する中で驚いたことが大きく分けて二つある。一つ目は、バンコクの街中に日本企業や日本製品が数多く存在していたということである。日本料理店もよく見かけた。タイの人にとって、日本という国は身近なものなのだろうかと思った。二つ目は、チュラロンコン大学の学生の日本語運用能力の高さである。タイの学生は高校のころから第二外国語を学ぶのだと聞いた。その第二外国語の中に日本語があり、日本語を学習することが選ばれていたのだということに驚いた。彼らに日本語学習を始めたきっかけを聞いてみると、日本のアニメや漫画をあげる人が多かった。日本のポップカルチャーのタイでの浸透を肌で感じる事ができた。日本のアニメや漫画が諸外国でも人気があるということは、私のなかでは現実のものではなかったが、実際にタイで仲良くなった学生たちが好きだと言っているのを聞いて現実世界のものとなった。

私はこれまで、日本語母語話者に対する日本語教育や諸外国での英語教育について興味を持っていた。今回のプログラムで日本語を学ぶ海外の学生と交流することによって、外国人日本語学習者に対する日本語教育へも興味を持つようになった。チュラロンコン大学の学生と交流するなかで得た言語教育への新たな興味を今後の進路に生かしていきたいと思う。

このプログラムへの参加と事前研修としての京都サマープログラムサポーター活動を通じて、東南アジア諸国に対する関心が非常に高まった。加えて、アジアの中の日本という視点を手にいれることができた。このプログラムで仲良くなったタイの学生などとの結びつきを大切に、これからも交流を続けていきたいと考えている。近いうちにまた東南アジア諸国を訪れたいと思う。